広報ほんべつ

本別

いいひと いいまち いきいきほんべつ

HONBETSU

2018
November
No.1081
11月

表紙 義経の里スポーツフェスティバル
強歩・マラソン大会

Pick up

- 特集 本別高校NOW（なう。）
- 地域包括ケアプロジェクト ～住み慣れた地域で暮らし続けるために～
- 町スポーツ賞に３個人決定

特集 本別高校NOW なう。

ナビゲーター
近藤浩文校長

昭和17年、十勝管内２番目の旧制中学校「町立本別中学校」として開校した本別高校（近藤浩文校長、100人）は、今年で76周年を迎える歴史と伝統のある学校です。今年度から同校に赴任した近藤浩文校長をナビゲーターに、その魅力を紹介していただきます。

スクールライフなう。NOW

本高だからできること

本別高校校長の近藤です。私は本別高校の生徒が大好きです。彼らがどんな環境で学んでいるか、皆さんにお伝えします。

本別高校　近藤浩文校長

本別高校は「創意実践」の校訓のもと、「一人ひとりが豊かな心をもち、いきいきと学びつづけるために」を目標とし、教師一丸となって「社会で自立できる生徒」を育成する教育活動を展開しています。

本別高校では、教職員が生徒一人ひとりの学習状況や希望する進路、部活動、個性までを共有し、教職員みんなで、生徒を育てる体制づくりから、生徒の長い人生を見据えた人間教育を大切にしています。

本高祭　パフォーマンス

オープンスクール

本高メモ　学校体制と学習指導

◆安心・安全な環境を確保し、豊かな心と知性を育む学校体制

・いじめ防止対策の徹底
・良好な人間関係を築く力を育てるプログラム
・より理解しやすい、授業のユニバーサルデザイン
・自己管理力を高め、自立力を養う手帳の活用

◆基礎・基本の徹底を図り、思考力を育成する学習指導

・グループワーク等による対話的で深い学びの追求
・先進校との連携による効果的な学習指導法の研究

本別高校での学校生活

授業スタイルはグループワークが多く、説明する力が求められます。皆と考え方を交流させることにより、学びやすく、全員が理解しやすいです。

生徒の人数が少ないことで、他学年との交流も多くなります。各委員会も全学年が一緒に活動することで、生徒全員の意識が高まっていると感じます。

部活動はバレー部に所属していますが人数が揃わず、近隣校と練習したり、野球部と助け合って大会に出場したりしています。野球は生まれて初めて取り組んだにも関わらず、全国高等学校野球選手権大会十勝支部予選に出場し、レフトの守備につく経験もできました。

本別高校最大の行事は学校祭。パフォーマンスや合唱など、みんなで楽しもうという意識がみられ、来場者からも好評でした。来年も伝統を継承しつつ、町民を巻き込むなどさらなる展開も検討したいです。

本別高校生徒会
小林　開会長

進路なう。NOW

本高だからできること

基礎学力の向上から難関大突破を目指す学びまで、生徒一人ひとりの目標やレベルに合わせて実力アップを図っています。どんなときにも個別対応で生徒の学びをバックアップできるのは、小規模校ならではの大きな魅力です。

本高・進路クエスト

約100の大学・短大や専門学校、13の企業が参加して進路ガイダンスを実施。小規模校では前例のない取り組みです。また、町内の中学生も参加した模擬体験授業のほか、進路ミュージカル、奨学金などに関する説明会が行われ、自分の将来を見据えた進路選択の学習の場にしています。

責任を持って進路指導いたします

本別高校では総合的な学習の時間に進路学習を行っています。1年生は興味のある仕事を体験的に学ぶインターンシップを行い、社会貢献の意義を学習。2年生は進路意識を高める講話を通じて、目指す職業や学問の理解を深めます。3年生ではマンツーマンで進路指導が行われるほか、放課後講習や夏期・冬季講習で必要な学力を着実に身に着け、一人ひとりが本当に求める進路に導きます。

本別高校進路指導担当
矢ノ目知恵 教諭

本高メモ　進学・就職に強いわけ

◆3学年全員に専属の指導教員配置

合格・内定まで徹底した個別指導！生徒のやる気にとことん付き合う教師陣。

◆模擬試験受験料助成

受験料の1／2を何度でも助成。看護模試・公務員模試・全国統一模試・総合学力模試、小論文模試など29年度は延べ187人が受験。

◆補助教材費支給

生徒全員に国語・数学・英語の教材や、入試問題対策の書籍など、教材購入費を全額補助。29年度は約220万円を支給。

◆企業からの厚い信頼

◆すぐに役立つ資格を取得

資格取得検定料の1／2を何度でも助成。漢字能力検定、実用英語技能検定、日本語ワープロ検定、簿記実務検定、ニュース時事能力検定、硬筆書写検定など、29年度は延べ224人が受験。

充実したサポート体制

中学3年生のとき、町外の高校への進学も考えましたが、両親の勧めもあり本別高校へ進みました。本別高校では一人ひとりの進路の希望に応じて学習のサポートをしてくれ、英語の学習や英検対策の勉強が大学の授業でも大変役に立ちました。大学の指定校推薦も充実しており、その制度を活用して大学に進学し、公私共に充実した学生生活を送っています。当時は弓道部に所属していて、地域の指導者のサポートのおかげで全道大会に出場したことも良い思い出。今は「本別高校に行ってよかった」と思っています。

本別高校卒業生
立教大学3年
飯山雄登さん

自分の将来をしっかり考える環境をつくり、そこに向かって着実に歩むためのサポートをします

本高メモ　進路状況

◆卒業生の進学・就職実績（過去4年間）

・国公立大学（小樽商科大学、北海道教育大学など）11人
・私立大・短期大学（立教大学、北海学園大学など）38人
・専門学校（看護学校、医療・福祉専門学校など）81人
・民間就職66人
・官公庁（役場、自衛隊、消防、北海道警察など）20人

◆伝統校ならではの多彩な指定校推薦枠

（平成30年10月1日現在）

【大学】立教大学、山梨学院大学など道外23校、北海学園大学、北星学園大学、北海道医療大学など道内16校

【短大】北海道武蔵女子短期大学など道内外20校

【専門学校】道内外50校

本高だからできること

支援なう。NOW

本別高校の教育を考える会は、生徒と保護者の皆さんをさまざまな側面から支援しています。同会の制度の活用により、生徒たちは、本別高校で自分のやりたいことの実現に向かっていると、実感しています。

本高メモ

支援内容

町と本別高校の教育を考える会では、本別高校の生徒に次のような支援を実施しています。

◆**入学準備支援**：制服購入費を全額補助

◆**遠距離通学・下宿補助**：
- 片道６㎞以上の生徒の通学バス定期代を登校日相当全額補助
- 町内の下宿利用者に６万円を上限に補助

◆**学力向上対策支援**：
- 模擬試験受験料の1/2を助成
- 学校で使用する教材購入費を全額助成

◆**進路指導対策支援**：
- 漢字能力検定や日本語ワープロ検定など、資格取得検定料の1/2助成
- 大学等のオープンキャンパス参加のための交通費の一部助成

◆**給食の提供**：希望者には１食255円で提供

◆**部活動支援**：定額補助と加入部員数による助成

◆**校外学習行事支援**：
全校応援やスキー授業などのバス貸し切り料金を助成

◆**介護職員初任者研修（旧ホームヘルパー２級課程）の無料受講**

◆**無料直行送迎**：音更町、陸別町から送迎

◆**放課後英語教室**：
英検２級・準２級を目指し指導者を派遣

入学準備から卒業まで、全方位的に資金面をバックアップします

生徒への多大な支援に感謝

本別高校は郡部の小規模校ながら、生徒の部活参加率が90％を超え、文武両道の学校生活が特徴的です。先生は少数ながら、学習指導はもちろん、部活指導や進路指導、学校祭運営など親身になって生徒の相談にのってくれます。支援により、進学や就職に有利な資格の取得や模擬試験、オープンキャンパス参加費用の助成、また給食の提供など、生徒や保護者の負担が大幅に軽減され大変助かっています。

本別高校ＰＴＡ
松井法明 会長

本別高校の教育を考える会
山根博和 会長

本別高校への支援

本会は、生徒・保護者・先生と一緒に、「魅力ある本別高校」「本別高校からはじまる夢への挑戦！」をテーマに支援を行っています。伝統のある本別高校を町民の皆さんに見守ってもらうため、より多くの人からご意見をいただきたいです。関係機関の意思疎通をスムーズにすることによって、支援策が具体的な形に現れるよう、教育委員会とともに考え、地道な活動に取り組んでいきます。

本高メモ

学校案内2019

本別高校では、学習指導、進路指導、生活・行事・部活動のほか、本別高校の教育を考える会の支援など、同校をより詳しく知ってもらおうと、「学校案内２０１９」を作成して、町内全中学校３年生などに配付しています。

また、同校ホームページには、学校案内のほか、学校行事や授業風景などの掲載が日々更新され、笑顔あふれる学校の様子が伝わります。

頑張っている本別高校 今後も支え続けます

本会は同窓生の親睦と母校発展の寄与を目的に活動し、毎年７月15日には故山内三郎教頭慰霊祭を行っています。私が入学する前年の昭和38年に校舎が全焼し体育館で授業を受けたことや、陸別駅からタスキをつなげた駅伝大会では全校22クラスの代表者が競い合ったことなどを思い出します。生徒は少なくなりましたが、学校祭などで頑張っている姿が印象的です。今後も会として母校を支え続けます。

本別高校同窓会
方川一郎 会長

故 山内三郎教頭慰霊祭

本別高校がないと困ります

地元の高校がなくなれば、通学にかかる時間や費用など、生徒はもちろん、保護者の負担も大きくなり困ります。子供たちのために、通学路の美化に努めているグループもあり、子どもがいなくなると町の活気がなくなることが懸念されます。

町ＰＴＡ連合会
瀧澤修司 会長
（本別中学校ＰＴＡ会長）

地域の子どもは地域で育てる

本別町の特徴は、大人も子どもも自然にあいさつができること。人生のベースとなる年代に、地域を大事にする心、人間関係を大事にする心が養われていることを感じます。高校生までは地元で育てることが大事。本別中学校と本別高校は距離も近く、さらに連携した取り組みができないか、模索しています。

町校長会
寺島康博 副会長
（本別中学校校長）

本別高校の現状

全国的に少子化による人口減少が進み、地方の高校では２学級を維持し続けていくことはたいへん厳しい状況にあります。

北海道教育委員会は９月４日、平成30年度の北海道公立高等学校配置計画を公表しましたが、これまでの再三にわたる要請活動等により、本別高校の平成31年度の募集枠は２学級を確保することができました。

しかしながら、今回の２学級募集の決定は、あくまでも募集枠を確保できたということであり、実際に２学級以上の生徒の入学がなければ、今後においての募集枠は１学級となることが想定され、平成31年度の入学生確保が大きなカギを握っています。

未来を見越した生徒指導

最近、よくＡＩ（人工知能）という言葉をよく耳にしますが、今後10年から20年先には、このＡＩの進化により、今ある職種の半数で雇用が減少するだろうといわれています。まさに今、義務教育で学んでいる児童生徒の進路先に、多大な影響を及ぼすことになります。

改訂された学習指導要領においても、どの時代にあっても、子供たちがたくましく生きていけるよう、その「生きる力」を育む指導が重要視されています。現在、本別高校では、地域の人材を活用しつつ、生徒が生きる力を養い、自信をもって自らの将来像を描くことができるよう、新たな取り組みをスタートさせています。生徒個々の夢を確実に実現できる学校、地域とともに進化する学校、それが本別高校です。

そんな素晴らしい高校が、生徒数の減少により、２学級を確保することが厳しい状況下に置かれています。本別高校が２学級を確保し、今後も存続し続けるためには、地元進学率の向上が必須条件となっています。保護者の皆さん、そして全町民の皆さんのご支援、ご協力を宜しくお願いします。

町教育委員会
佐々木基裕 教育長

本高から、本当の自分へ。

Walk Together.　本当に望む自分がいる未来へ

問い合わせ
町教育委員会管理課　☎22－2331
北海道本別高等学校　☎22－2052　http://www.honbetsu.hokkaido-c.ed.jp/

地域包括ケア

～住み慣れた地域で暮らし続けるために～

地域包括ケアプロジェクト

Vol. 1

平成5年に始動した「在宅福祉ネットワーク活動」から、平成13年の「健康長寿のまちづくり条例」制定、平成18年には「福祉でまちづくり宣言」と、わが町が誇る生き生きとした町民の力が地域福祉を支えてきました。しかし、町の医療・介護サービス提供体制は既に限界を迎えつつあります。いつまでも安心して暮らせるまちづくりを行うため、そして、これからの地域福祉を見つめ直し構築するため、平成29年から「地域包括ケア」に取り組んでいます。

地域包括ケアキックオフ

町の医療・介護サービスの現状は、町国保病院では、医師は常勤医師5名体制と充足しているものの、看護師や看護助手は人手不足という深刻な状況が続いています。また、老人保健施設などの介護事業所においても、人手不足が続いており、介護人材の確保に努めているところです。一方、日常生活における身体機能低下により、通院することが困難な高齢者も増えてきており、地域での療養が難しくなって、やむなく町外へ転出せざるを得ない状況も出てきかねません。

このようなことから本町では、平成29年3月から長野県諏訪中央病院の名誉院長である鎌田實医師が所長を務める地域包括ケア研究所と連携し、本別町らしい「地域包括ケア」をスタートさせるためのプロジェクトを立ち上げました。

一人一人が自らの生き方を自己決定すること、それを周囲の家族や地域社会、専門家がサポートし合うことのできる町づくりが、地域包括ケア推進の「カギ」となります。鎌田医師は「誰かのために1％だけ行動することが大切。99％は自分のために、自分が自分らしく生きる。そして、1％だけ誰かのために行動することで、その力が結集され、少しずつ町が変わっていく力になっていく」と説きます。

これまで町民力によって地域福祉を支えてきた本町には、既に「1％の行動」の下地が整っていると考えられます。

介護予防教室「山ぶどうの会」健康講話

今なぜ地域包括ケアが必要なのか

本町の高齢化率は、現在40％を超えています。そして何よりも、町の活力の担い手である生産年齢人口は減り続けています。昭和60年には、担い手となる生産年齢人口5・2人で高齢者1人を支えていました。しかし、平成27年には、同1・4人に対して1人、平成37年には、同1・1人に対して1人と、さらに少子高齢化が進み、介護の支え手にかかる負担は今後も増すばかりです。

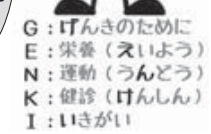
この状況は私たちの暮らしにどのような影響をもたらすのでしょうか。例えば、「当たり前に病院にかかることができなくなる」「医療費の自己負担が上昇する」「介護が必要な時に、介護者がいない」など、今は可能なことでも、将来は難しくなることが予想されます。すなわち、医療・介護サービスを必要とする人たちが増える一方で、サービスを支える人材や財源が不足し、公的サービスの提供ができなくなりつつあります。そのためにも、地域で暮らす住民が住み慣れた地域で自分らしい生活を人生の最期まで持続できるように介護や医療、更には住まいや生活支援といった住民を支えるサービスを一体的に提供できる仕組みづくり、いわゆる地域包括ケアシステムの構築が今後必要となってきます。

地域包括ケアには、「自助（自分自身を支えること）・互助（個人同士の自発的な支え合い）・共助（制度化された相互扶助）・公助（生活保障制度や社会福祉制度など公に行うこと）」の仕組みを整えるとともに、これらの連携が不可欠となっています。連携づくりの一つとして、町ではGENKIくんプロジェクトを今年度から立ち上げ、互いに地域で支え合える仕組みを構築するための講話や、運動などの取り組みをスタートさせました。

GENKIくんプロジェクト始動

これまでの健康づくり活動に加え、さらに町民一人一人が健康で自らの人生を自己決定し、互いに支え合うことの必要性を感じていただくことを目指して始まったGENKIくんプロジェクト。「（G）元気になるために、（E）栄養、（N）運動、（K）健康診断、（I）生きがいを大切にしよう」をキーワードに、各自治会へ訪問し、鎌田實医師の健康講話や、健康のための運動、保健師による健康相談などを行うことで、日ごろのつながりから、地域で支え合える仕組みづくりの第一歩として取り組んでいます。

GENKIくんプロジェクトは始まったばかりですが、GENKI（元気）になるための取り組みが少しでも多くの町民に浸透するよう今後も多くの自治会や団体等とつながりを持ち進めていきます。



今後は、GENKIくんプロジェクトや、皆さんの日ごろからの取り組みなどをシリーズ化して紙面で紹介していきます

今後の予定

- ●11月1日（木）
  地域包括ケア研修会
  （医療・介護・福祉の専門家対象）
- ●11月30日（金）
  健康づくり講話
  （南1丁目、錦町）
- ●2月中（予定）
  地域包括ケア報告会2018
  （町民対象）

問い合わせ

- ●地域包括ケアに関すること
  総合ケアセンター　☎22－8520
- ●GENKIくんプロジェクトに関すること
  健康管理センター　☎22－2219

佐藤正志さん・野原光廣さん・松嶋絹花さん

スポーツ賞 個人

今年度のスポーツ賞が、10月25日の町教育委員会で決定しました。受賞者は次の通りです。なお、文化賞等の該当者はありませんでした。

授賞式は11月3日（文化の日）午前10時から 中央公民館大ホールで行われます

教育委員会 ☎22-5111

【功労の部】

佐藤正志さん（北8丁目）

昭和45年に本別スキー愛好者「シーハイルクラブ」設立の発起人として、また、昭和50年に本別スキー連盟移行に伴う協議メンバーとして尽力。発足当初から同連盟役員として活躍され、平成30年4月からは副会長に就任し現在に至る。

この間、昭和54年に東町つつじヶ丘スキー場の管理部長に就任し、スキー場のリフトや夜間照明設置などスキー場整備および安全な運営に力を注がれた。

また、各種スキー教室では、小・中学生にスキーの基礎技術指導を行うなど、愛好者の底辺拡大のため活動し、本連盟の発展や青少年の健全育成に尽力され、本町のスポーツ振興に寄与された功績は誠に顕著である。

野原光廣さん（栄町）

昭和45年に本別柔剣道連盟柔道部（本別柔道連盟の前身）に入会し、昭和46年から平成9年まで本別町柔道連盟指導部長として柔道少年団の指導、平成10年からは副会長に就任し、現在に至る。

この間、長年にわたり柔道少年団の指導に力を注がれ、指導者として高い評価を得、柔道人口の底辺拡大に努めているほか、本別町スポーツ指導員を担っており、地域スポーツ振興に寄与している。

また、少年柔道大会に監督として出場し、東北海道大会など各種大会で優秀な成績を収めるなど、本連盟の発展や青少年の健全育成、普及発展に尽力され、本町のスポーツ振興に寄与された功績は誠に顕著である。

【優秀選手の部】

松嶋絹花さん（柳町）

第72回国民体育大会アーチェリー競技少年女子
北海道チーム……第6位
第26回北海道室内アーチェリー選手権大会
RC女子……第1位
平成29年度JOCジュニアオリンピックカップ
兼第36回全国高等学校アーチェリー選抜大会
女子個人……第3位
第51回道新杯オール北海道アーチェリー大会
RC部門女子ゴールド……第1位
第31回会長杯全道アーチェリー大会
RC女子ゴールドクラス……優勝
第59回北海道ターゲットアーチェリー選手権大会
RC女子……第1位

平成30年度 町スポーツ賞に3個人

国民年金コーナー その199

国民年金保険料は納めた全額が社会保険料控除の対象です

国民年金保険料は、所得税や住民税の申告において納めた全額が社会保険料控除の対象となります。平成30年1月1日から12月31日までに納めた保険料が対象です。

年末調整や確定申告で社会保険料控除を受けるためには、「社会保険料（国民年金保険料）控除証明書」または「領収証書」など、国民年金保険料を納めたことを証明する書類の添付が必要です。

このため、平成30年1月1日から10月1日までの間に国民年金保険料を納めた人には、日本年金機構から11月に「控除証明書」が送付されます。10月2日以降に今年はじめて保険料を納付した人には、平成31年2月に送付されます。

社会保険料控除Q&A

Q 家族の国民年金保険料を代わりに納付したときはどうすればいいですか？

A ご自身の社会保険料と合わせて申告することができます。ご家族あてに送られた控除証明書を添付して、申告して下さい。

Q 控除証明書をなくしてしまったのですが、再発行できますか？

A 再発行することはできます。年金加入者ダイヤルまたは帯広年金事務所へお問い合わせください。

なお、ねんきんネットのユーザID をお持ちの人は、ねんきんネットを利用して再発行の申請ができます。

控除証明書に関する問い合わせは「ねんきん加入者ダイヤル」へ
☎0570-003-004
（IP電話 03-6630-2525）

問い合わせ
住民課戸籍年金担当へ ☎22-8128
帯広年金事務所 ☎0155-25-8113
日本年金機構のホームページは http://www.nenkin.go.jp/

シリーズ 地方創生

将来に渡って活力ある地域を維持していくために

～まち・ひと・しごと創生総合戦略の更なる推進を目指して～ その5

5月からスタートした「シリーズ地方創生」。前号までに4つの基本目標にかかる数値目標や成果指標の達成状況等についてお知らせしてきました。本町では、その基本目標を達成するため、国の地方創生関連交付金を活用したさまざまな取り組みも行っています。今回は、その交付金活用事業のうち観光分野の取り組みの一部についてお知らせします。

地方創生推進交付金

平成29年度　3町全体事業費：15,740千円
【H28～H32広域連携事業】道の駅を核とした
“（仮称）銀河の里DMO”観光地域づくり連携事業

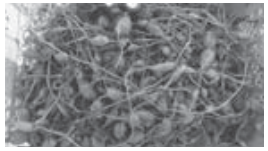
十勝東北部3町（本別町、足寄町、陸別町）では、観光地域づくり推進に向けた地域内での機運を高め、3町圏域での観光振興につなげる施策について連携し推進しています。

その内容は、地域の稼ぐ力を育むものとして、圏域における食や観光資源などの地域資源を活用しながら、商品やサービスの提供・販売の実際・実証を通じ、人材育成と稼ぐ可能性の模索を並行して進めています。地域内外の関係者が連携し「食」と「観光」の商品力や販売力強化にチャレンジし、圏域としての魅力創出や地域が稼ぐための可能性を見出すための取り組みを行っています。

① 新たな食資源創出生産プロジェクト

世界三大健康野菜と言われているヤーコン・菊芋・アピオス等の高収益作物の産地化に向け、市場調査や産地化提案、販路開拓・拡大等の出口展開を模索する研究を進めています。

本別産「アピオス」



ＪＡ青年部（本別支部）が研究栽培する「アピオス」の圃場

本別産健康野菜を使用した「焼き菓子」の試作品

② 地域産品販路拡大実証事業

3町圏域内で生産される農畜産物や加工品等の販路拡大に向け、道外の道の駅や物産館と連携し、既存以外の販売ルートを構築する試みを行っています。

本町では、友好都市である徳島県小松島市との間で、実際の取引につなげるための販売実証を進めています。

JA東とくしまが経営する産直市「みはらしの丘あいさい広場」での販売（平成28年12月）

徳島産早生温州みかんの販売会（道の駅本別：平成29年12月）

③ 新たな食ブランド構築事業

独自の食文化を創造するため、飲食店経営者をはじめ、3町の若手商工関係者が主体となった研究会を立ち上げ、新たな食ブランド構築に取り組んでいます。

「食」を通して、3町のブランド力全体を高めていけるモノ、今ある食がよりおいしくなるモノ、地域定着を図れそうなモノ、地域への来訪動機や滞在動機につながるモノとして、現在、クラフトビールの研究が行われています。

“本別初登場”となった樽生ビアー彩での試験販売（平成30年7月）

④ 圏域周遊モデルルート開発事業

圏域が有する自然資源などを有効に活用する新たな観光コンテンツの開発とともに、圏域内におけるモデルルート構築や顧客ニーズの把握から入込拡大につなげる取り組みや関係者間のネットワーク構築を図っています。

移動式宿泊施設を活用したモデルルート構築として、3町圏域において、21か所の滞在ポイントを確保。サイクリング・ウオーキングなどのスポーツアクティビティと公共交通、宿泊を組み合わせた企画プランの発案や3町の地域食材を活用した食事提供、宿泊運営にかかる3町関係者のネットワーク化を進めています。

十勝東北部3町圏域においても、増加傾向にある外国人旅行者を当圏域に更に誘引していく取り組みとして、近年、特に北海道への入込が多い台湾・香港からの観光客をターゲット化したインターネットメディアにおける広告宣伝を展開しました。

在日留学生が情報発信者として、十勝東北部3町を訪問取材（平成30年1月）

⑤ 拠点施設等魅力創出事業

3町の各地域における道の駅などの観光拠点施設の発信性を高め、道の駅間の合同イベントの開催や来訪者のニーズ把握など、圏域としての集客や道の駅の売上向上につなげる取り組みを実証しています。

圏域内を巡るソフトクリームラリーや特産品プレゼントなどの応募型企画や各施設に他町の特産品が購入できるよう新コーナーの設置などの取り組みが行われています。

事業の成果

本事業は各町のまちづくりへの将来につなげる取り組みとして、3町間において実際に営業を行う事業者や関係者の横のネットワークが徐々に深まっています。圏域内の各地域に人を呼び込むための発想や独自性をもった試行が行われ、新しいことにチャレンジしていくことの重要性や地域づくり参画への意識高揚が図られてきています。

問い合わせ　企画振興課　地方創生推進室　☎22－8121

『地方公共団体の財政の健全化に関する法律』に基づく健全化判断比率等を公表します

町のホームページ http://www.town.honbetsu.hokkaido.jp/ でもご覧になれます

『地方公共団体の
財政の健全化に関する法律』
の規定により毎年度地方公共団体の
決算状況を連結ベースで財政分析する、
健全化判断比率等の算定および
公表が義務付けられています。

地方公共団体の財政の健全化に関する法律とは

これまでの自治体再建法制では、地方公共団体の普通会計において赤字額が標準財政規模の20％（都道府県は5％）を超えるといきなりレッドカードが出て財政再建団体となり、イエローカードともいえる注意喚起の段階がありませんでした。また、特別会計や企業会計にいくら累積赤字があっても財政再建団体とはなりませんでした。

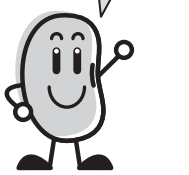
この法律では、「早期健全化」と「財政再生」の二段階で財政悪化をチェックするとともに、特別会計や企業会計もあわせた連結決算により地方公共団体の財政状況をより明らかにしようとするものです。

○財政再生団体（レッドカード）の前に、早期健全化団体（イエローカード）の段階が設けられました

○地方公共団体の本体に公営企業・一部事務組合・第三セクターなども加えて判断するようになりました

○単年度の現金収支に加えて、過去からの累積に基づく基準ができました（将来負担比率）

○公営企業の経営に関して、経営の健全化を促す基準ができました（資金不足比率）



早期健全化団体になると

健全化判断比率指標のいずれかが早期健全化基準を上回ると、財政健全化計画の策定（議会の議決）、外部監査の要求が義務付けられ、計画の実施状況を毎年度議会に報告、公表し、早期健全化が著しく困難と認められるときは知事から必要な勧告が行われます。

（平成20年度決算から適用）

財政再生団体になると

健全化判断比率指標のいずれかが財政再生基準を上回ると、財政再生計画の策定（議会の議決）、外部監査要求の義務付け、計画の実施状況の議会への報告、公表に加え、財政再生計画を総務大臣に協議し、同意を求めなくてはなりません（※1）。また、財政運営が計画に適合しないと認められる場合等において、予算の変更等が勧告されます。

（平成20年度決算から適用）

※1　同意がなければ、災害復旧事業費等を除く地方債の起債が制限されます

経営健全化基準について

早期健全化基準に相当するもので、各公営企業会計の資金不足比率が経営健全化基準を上回れば経営健全化計画の策定が義務付けられます。

（平成20年度決算から適用）

健全化比率の一般家庭でのイメージ

私たちの1年間の家計に例えると、日々の生活における収入と支出の状況や、現在の借入金と貯金のバランスを比率化したイメージとなります。

例えば、二世帯住宅で暮らすAさん夫婦世帯（一般会計）、息子さん夫婦世帯（企業会計）を本別町に例えた場合。

◆実質赤字比率

Aさん夫婦世帯の1年間の収入と支出の結果、赤字だった場合、その赤字額が家計規模に対してどの位の割合だったのかを表します。

◆連結実質赤字比率

Aさん夫婦世帯、息子さん夫婦世帯の1年間の収入と支出の結果、赤字だった場合、その赤字額がAさん夫婦世帯の家計の規模に対してどの位の割合だったのかを表します。

◆実質公債費比率

家族全員の1年間の住宅取得や自動車購入などの借入金返済額のうち、Aさん夫婦世帯が負担した返済額が、Aさん夫婦世帯の家計規模に対してどの位の割合だったのかを表します。

◆将来負担比率

家族全員の住宅取得や自動車購入などの借入金残高など、Aさん夫婦世帯が将来負担を予定している費用から貯金を差引いた額が、Aさん夫婦世帯の家計規模に対してどの位の割合だったのかを表します。

平成29年度決算に基づく本別町の健全化判断比率および資金不足比率について

地方公共団体の財政の健全化に関する法律（平成19年法律第94号）第３条第１項および第22条第１項の規定により、本別町における平成29年度決算に基づく健全化判断比率および資金不足比率について公表します。

1　健全化判断比率

平成29年度本別町各会計の決算に基づき健全化判断比率を算定したところ、下表のとおり、いずれの指標についても早期健全化基準、財政再生基準を下回りました。

指　　標	本　別　町		早期健全化基準	財政再生基準
	平成29年度	平成28年度		
実質赤字比率	－　％	－　％	15.0％	20.0％
連結実質赤字比率	－　％	－　％	20.0％	30.0％
実質公債費比率	8.7％	8.7％	25.0％	35.0％
将来負担比率	25.0％	20.1％	350.0％	

※実質赤字比率または連結実質赤字比率は、それぞれ赤字額がないため「－」で表示しています

2　資金不足比率

各公営企業会計における資金不足比率については、平成29年度決算において資金不足を生じた公営企業がないため、該当ありません。

会計の名称	本　別　町		経営健全化基準
	平成29年度	平成28年度	
水道事業会計	－％	－％	20.0％
国民健康保険病院事業会計	－％	－％	
簡易水道特別会計	－％	－％	
公共下水道特別会計	－％	－％	

※資金不足比率は、資金不足額がないため、「－」で表示しています

○健全化判断比率および資金不足比率については、監査委員の審査に付した後、その意見を付して、９月11日開会の第３回定例町議会に報告いたしました。

銀河の里ツリーフェスティバル2018inほんべつ（実行委員会主催＝齊藤元一実行委員長）が10月14日、本別公園静山キャンプ場で行われました。

林業を伝え、守り、育てる

1 齊藤実行委員長あいさつ
2 イベントを記念してアオダモの苗を植樹
3 迫力ある伐倒ショー。実際の作業の手順を解説
4 世界大会も行われる枝払い競技。今年は対戦形式で実施
5 指導林家の齋藤徳夫氏が簡易製材機の使用方法を実演
6 森林インストラクターの案内で樹木を中心に楽しく学ぶ森林ツアー
7 丸太早切り選手権は今年も熱戦を繰り広げました

森に囲まれ林産業が盛んな本別、足寄、陸別3町の林業関係企業や団体などが、十勝の林業や木材産業を盛り上げようと実行委員会を立ち上げ、今年で3回目の開催。これまで守り伝えてきた林業や、カラマツを中心とした十勝の木の魅力を、一般の人に身近に感じてもらうとともに、新たな担い手への働きかけなどを目的として集まりました。

開会式では、齊藤実行委員長が、「十勝ではカラマツが多く植林され、最近では住宅用にも加工されています。本別公園は樹木に囲まれた素晴らしい環境にあり、針葉樹林と広葉樹林、それぞれの木が多く生育しており、ぜひ触れていただきたい」とあいさつし、記念に関係者でアオダモの苗木を植樹しました。

会場のステージでは、林業に従事するあしょろ岐志会がチェーンソーを駆使して、十勝産からまつの伐倒ショーや枝払いショーを披露し、指導林家の齋藤徳夫さんは簡易製材機を操り、角材や板材の製造過程を披露。来場者がタイムを競う丸太早切り選手権も行われました。

また各ブースではピザやパン作り、地元産バットでトスバッティング、薪割り、木の玉プールなどの体験コーナーが用意されたほか、ロープを使った木登り「ツリーイング」が今年初登場。約10㍍の頂上を目指して、子供たちの人気を博しました。十勝の森潜入ツアーでは、個性豊かな樹木について楽しく学んだほか、木製品やストーブの展示、ご当地グルメコーナーなども充実し、家族連れなど約1500人の来場者が「木」に親しみ、イベントを楽しみました。

3町のマスコットキャラクターが森の中で遊ぶスプレーアート

鹿の毛皮を羽織って「はい、チーズ！」。管内外から1500人が来場

木に触れて、遊んで、学ぶ

初登場のツリーイングは大人気

ペレットグリルでピザづくり　焚き火でパンづくり

8 薪割り体験
9 トスバッティング
10 十勝産カラマツウッドキャンドルで巨大マシュマロを焼こう
11 クリスマスリース作り
12 木製玩具を使った木育体験
13 木の玉プール

ほんべつならではの、ご当地グルメコーナー

専門的な展示・販売コーナーに来場者は興味津々

秋の交通安全運動2018

町内では、秋の全国交通安全運動（９月21日～30日）に合わせ、各種団体が交通安全集会や交通安全キャンペーンを行い、ドライバーへ啓発チラシやグッズなどを手渡し、交通ルールの徹底を呼びかけました。

９月26日　商工会女性部

９月25日　北海道警友会十勝支部本別地区

９月21日　老人クラブ連合会

９月27日　本別ライオンズクラブ

９月26日　柏木町自治会婦人部

９月26日　交通安全タスキリレー

交通安全母の会　今までありがとう
街頭で安全運転を呼び掛け続け41年

交通安全母の会（田西喜代会長、会員７人）が９月21日、ふれあい公園と旧駅前国道交差点にて交通安全キャンペーンを行い、41年間に及ぶ街頭啓発活動に幕を閉じました。同会は昭和53年発足以来、「交通安全は家庭から」を合言葉に地域を見守り、毎年、季節ごとに街頭に並び、手作りのチラシでドライバーに交通安全を呼びかけてきました。また、高齢者を対象とした交通安全勉強会の開催、飲酒運転撲滅運動として手作りマスコットを町内事業所等へ配付するなど、さまざまな運動を実践。平成29年度には、発足40年を記念して交通安全住民大会と、道警音楽隊およびカラーガード隊のパレード・演奏会が開催されましたが、高齢化による会員数の減少に伴い、関係者から惜しまれながらも、今年度の活動をもって解散します。

９月21日に老人クラブ連合会（小川健次会長）の会員30人が、同25日には北海道警友会十勝支部本別地区（坂井久恵地区長）の会員７人が、同26日には商工会女性部（新津直子部長）の部員９人が、同27日には本別ライオンズクラブ（岡崎勉会長）の会員11人が、それぞれ北８丁目ふれあい交通公園で交通安全キャンペーンを行いました。

また、同26日には、本別町交通安全協会（長谷川隆司会長）が本別・足寄・陸別町の三町で交通安全タスキリレーを実施。本別警察署前広場で出発式が行われ、同協会の朝日基光副会長が参加者を前に決意表明を読み上げました。出発式に続いて、北８丁目ふれあい公園にて柏木町自治会婦人部（澤田京子部長）とともに計約20人が交通安全キャンペーンを行い、道行く多くのドライバーに安全運転を呼び掛けました。

地球環境を考える
自治体サミットin本別

本別の取り組みを全国に発信！

事例発表をする佐藤豊作 町保健衛生組合長

第14回地球環境を考える自治体サミットin本別（地球環境を考える自治体サミットほか主催）が10月11日と12日の両日、中央公民館などで開催されました。茨城県や鹿児島県など全国７市町村の首長らが本別町に集合し、各自治体における取り組みや課題について議論を繰り広げました。

自治体サミットは、環境問題に積極的に取り組む自治体が集い、情報交換や交流を通して、地域からの地球環境保全活動を推進・発信するため、毎年持ちまわりで開かれています。今年のテーマは「住みよい地域環境と循環型社会」。11日は中央公民館に関係者のほか、町民など一般参加者を含めて約80人が来場し、講演や事例発表が行われました。

開会式では、主催者を代表して、徳島県上勝町の花本靖町長が、「このサミットを契機に関係自治体との連携、住民との連携強化に発展させることが大切で、地方から国へ、そして全世界へ地球環境の課題解決に向けた原動力となるよう祈念します」とあいさつ。続いて、環境省北海道パートナーシップオフィスの溝渕清彦氏が、国連の「持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）」について基調講演し、地球規模の環境課題の解決に向けて、世界が取り組み始めている現状について解説しました。

事例発表では、町保健衛生組合の佐藤豊作組合長が、清掃確認や花壇整備、不法投棄パトロールなど町衛生組合の活動を発表。「本別町を訪れた町外の人から、町がきれいだと褒められ、活動の成果を実感しています」と語りました。また、鹿追町の松本新吾副町長は、鹿追町における農業と再生可能エネルギーとして、町内に建設したバイオガスプラントが環境に配慮した循環型農業に寄与している事例を発表しました。

12日は施設見学後、総会を開催して、各自治体の取り組みを紹介するなど、お互いに情報交換を図りました。

あいさつする花本靖共同代表（徳島県上勝町長）

基調講演

環境省北海道パートナーシップオフィス　溝渕清彦氏

これまで、開発事業には環境破壊がついて回ったが、これからの時代は環境共生型の社会づくりとしてＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）が求められています。２０１５年９月の国連サミットで「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「経済成長と雇用」など17のＳＤＧｓが採択されました。「２０３０年に向けた国際目標」として世界をよくするために掲げられており、各自治体や企業、個人が取り組むことにより地域の持続可能性が高められるため、地域づくりの参考にしていただきたい。

全国からサミット関係者が来町したほか、一般町民も講演会に参加

事例発表　松本新吾鹿追町副町長

ほんべつ学びフェスタ2018を開催します！

～まちの中に四つの風を吹き渡らせよう！～

家庭・学校・地域が一体となった学びの環境を充実させるために、本別町教育委員会では平成19年９月11日に「ほんべつ学びの日」を宣言しました。ほんべつ学びフェスタは、学びの実践を発信する場として位置づけられています。「ほんべつ学びの日」の趣旨や学びの取り組みについて理解を深めるために、「四つの風」をまちの中に吹き渡らせ、学びの輪の拡大を目的に同フェスタを開催します。

当日はさまざまな体験や発表を通じて学びの輪を広げるために、子どもから大人まで広く楽しめるプログラムをご用意して、皆さんのご来場をお待ちしています！

と　き　12月１日（土）　午前９時30分～午後３時

ところ　中央公民館

主　催　ほんべつ学びフェスタ実行委員会

★オープニングイベント

午前９時30分
- ◆開会式
- ◆オーストラリアミッチェル訪問団報告会
- ◆徳島県小松島市立江交流派遣事業報告会（勇足小）

午前10時30分
- ◆ボッチャ体験
  （ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障がい者のために考案されたスポーツで、パラリンピック正式種目）

★体験コーナー

午前９時～午前10時30分
- ◆給食センター職員と作る「昼食バザー」調理体験

午前10時～午後１時
- ◆子ども お茶席

- ◆本別高校「近藤校長先生と本別高校生徒による理科実験コーナー」
- ◆小学生対象子どもお仕事体験

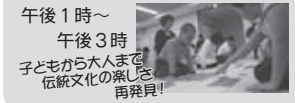
★展示コーナー（２階展示面）

午前９時30分～午後３時
- ◆社会教育関連事業の写真パネル展・事業動画映写
- ◆小・中・高の学校紹介パネル展
- ◆「収穫から給食提供まで」パネル展

光風（ひかりかぜ）
祈風（いのりかぜ）
夢風（ゆめかぜ）
実風（みのりかぜ）

★北海道150年記念「下の句かるた交流大会」

午後１時～午後３時



子どもから大人まで伝統文化の楽しさ再発見！

★ロビーイベント（３階ロビー）

午前10時～午後１時30分
- ◆ぶっくるカフェ　コーヒー・ジュース
- ◆作品展示

★バザーコーナー

午前11時～午後１時30分
（売り切れ御免！）
- ◆元気くんキーマカレー
- ◆マンゴーミルクデザート
- ◆ポップコーン無料配付

問い合わせ　本別町中央公民館　☎２２－５１１１

歴史写真館＠ほんべつ

「戦争の時代」と呼ばれた昭和時代、本別町にも痛ましい爪跡が残されました。昭和20（１９４５）年に起こった町史最大の悲劇「本別空襲」。この惨事によって多くの命と財産を失いましたが、人々は焦土から立ち上がり、平和で豊かなまちの再建を目指すのでした。

「歴史写真館＠ほんべつ」８回目は、終戦から６年が過ぎた昭和26（１９５１）年。戦災被害からの急速なインフラ整備、産業の立て直し、教育の振興など、町民力を結集した「まちの復興」を示す開基50年の本別町の姿をお伝えします。

⑧ 昭和26年 戦災を乗り越えて 本別町開基五十年

① 本別味噌醤油展示会（昭和26年撮影／歴史民俗資料館所蔵）

昭和26（１９５１）年は、本別外５カ村戸長役場が設置された明治35（１９０２）年から50年目となる年で、さまざまな催しが行われました。

９月19日、記念式典が開催され、会場の本別小学校屋内運動場には、６５０人以上が詰めかけました。そこでは前夜に録音された「町の古老の懐旧座談会」が放送されたほか、来賓には昭和26年度本別町勢要覧、本別町鳥瞰図などの記念品を贈呈。町内各家庭には茶わんと鉛筆が配られました。また、同日の祝宴では、この機に制定された新しい「本別町歌」が発表され、かつて美蘭別小学校の校長だった作詞家吉川静夫による力強い歌詞は、現在も歌い継がれています。

祝賀行事は、８月の少年野球リーグ戦から始まり、青年団の陸上競技や相撲大会、勇足競馬といったスポーツ大会が目白押し。９月18日からの４日間は、本別小学校の教室を利用した展示会も開催され（写真①）、農林畜産業、商工業などの現況、学校や文化団体の活動が、広く知れ渡ったようです。ここまでの記事と写真は、昭和28（１９５３）年に発行された「本別町五十年史」（写真③）によるものです。同史冒頭では「本町開基五十年の歴史は、取りも直さず開拓先人の奮闘史である」と開拓者を讃えています。布表紙に特産品の亜麻が使われていること、写真①のように当時から「豆のまち」を発信していることも興味深く、町のあゆみを今に伝える貴重な歴史書です。

② 花自動車で移動演芸

③ 本別町五十年史

お問い合わせ
歴史民俗資料館　☎22－2141内410
図書館　☎22－5112

各学校の手作りページ

HELLO 本別中学校

校訓 真剣

教育目標
力行 力いっぱい学ぶ生徒
方正 真面目に考え行動する生徒
錬磨 身も心も鍛える生徒

「ほんべつ学びの日」～4つの風の中で～ 学校づくり

全校生徒１３４人で平成30年度がスタートし、生徒たちは日々、何事にも精一杯取り組んでいます。これからも保護者・地域の皆様のご支援をいただき、良き伝統を継承し、新たな歴史を築いていきます。

入学式

51人が新たな決意

参観日

数学でも対話的な学習

不審者対応訓練

警察署職員による対処方法の指導

十勝中体連大会壮行会

全校一丸となって

3学年PTA親子進路学習会

本別高校はどんなところ？

修学旅行（函館市）

土方さんが二人？（金森赤レンガにて）

きらめきタウンフェスティバル

吹奏楽部が演奏を披露

文化祭

大迫力！大感動！の全校合唱

こんにちは！ほんべつ

農大生が野菜寄贈でお礼 9/18

北海道立農業大学校（山黒良寛校長）畑作園芸経営学科２年の学生３人が９月18日、ＮＰＯ法人ほんべつつつじの園（新津和也理事長）の作業所を訪問し、同大学校の農場で育てた野菜をプレゼントしました。これは、毎年つつじの園から同校へ卒業記念品として手作りのハガキセットを贈っていることからそのお礼として行われたもの。同学科の山本康彦農場長らは、ジャガイモ20kg、スイートコーン10kg、トマト20玉をつつじの園利用者に手渡し、「一生懸命育てました。おいしく食べてください」とあいさつしました。新津理事長は、「毎年ありがとうございます。学生と交流できてうれしいです」と感謝の言葉を述べました。

乳製品を使って骨太料理 9/19

町食生活改善推進員協議会（小泉優子会長）主催による生涯骨太クッキングが９月19日、健康管理センターで開催されました。小泉会長ら４人の同推進員の指導のもと、参加者15人が「チーズタッカルビ」「桜えびの炊き込みご飯」など４品を調理。料理にはチーズやヨーグルトなどの乳製品がふんだんに使用されており、参加者は骨折の原因にもなる骨粗しょう症予防のための骨太料理を学びました。

自慢の歌声や踊りを披露 9/14

仙明カラオケ同好会（川東義一会長）主催による第18回カラオケと芸能の夕べが９月14日、仙美里地区公民館で開かれました。発表では、同会の会員や地域の施設職員など25個人、４団体が出演。自慢の歌声やフラダンス、寸劇などが披露され、約100人の来場者から温かい声援と大きな拍手が送られました。

ラリーパークで選手を応援 9/15・16

ラリー北海道2018（アジア・パシフィックラリー選手権第４戦、全日本ラリー選手権第８戦、日本スーパーラリーシリーズ第４戦）が９月16日、上押帯から美蘭別、活込間の13.79kmスペシャルステージで開催されました。美蘭別に設置された観戦エリアでは、早朝と午後の２度のステージが行われ、道内外から訪れた観戦客の前をラリーカーが爆音とともに、土煙を巻き上げながら急なカーブをドリフトするなど、ド迫力の走行を見せました。またこれに先立ち15日、道の駅「ステラ★ほんべつ」で開催されたラリーパークには多くのファンが訪れ、ラリーカーを撮影したり、憧れのドライバーに声援を送るなど盛り上がりました。

まちの情報を広報電算担当へお寄せください ☎22−8121

ほんべつ ハイライト

悩める高校生へつづる言葉 9/28

本別高校（近藤浩文校長）３年生28人を対象に「命の授業」が９月28日、同校で行われました。諏訪中央病院名誉院長の鎌田實医師を講師に、子どもと命をテーマに講演。鎌田医師は自身の生い立ちや難民キャンプでの経験などを通じ、「頭が良いことよりも、決断する力、持続する力、友達を作る力、相手の身になる力が大事」と語り、生徒らは時折メモを取りながら食い入るように話を聞きました。

軽快なリズムで成果披露 9/23

第47回音楽祭（町文化協会、町中央公民館主催）が９月23日、中央公民館で開催されました。菅原道正文化協会会長が「バラエティに富んだ音楽を楽しんでください」と開会のあいさつをすると、同協会会員や一般町民ら７団体、約80人が軽快なリズムで吹奏楽やピアノ演奏など、日ごろの練習の成果を披露。演奏が終わるたびに、会場を訪れた約150人の観客から大きな拍手が送られました。

スポーツの秋。高齢者が7種目で交流 9/30

町社会福祉協議会（粂田達一会長）が主催する高齢者運動会が９月30日、町体育館で行われました。運動会には、町内の老人クラブ９クラブ約120人が出場し、赤、白、青の３チームに分かれ、「じゃんけんリレー」や「玉入れ選手権」など７種目を競技。参加者は、はつらつと体を動かし交流を楽しみました。

火の用心、お願いします 9/25

幼保連携型認定こども園ほんべつ（石田恵園長）が９月25日、避難訓練を行いました。本別消防署の協力のもと、避難訓練では、スモークマシンを使用し、園児140人が煙の中の避難を体験後、同園職員が初期消火訓練などを実施。続いて、前年度に発足した幼年防火クラブの年長児35人が、子ども用防火服を着装して放水体験を初めて行いました。その後、法被とハチマキに身を包むと、女性消防団員らと市街地の事業所などを訪問して「火事に気をつけてください」と呼び掛けました。

中学生が豊かな表現力で発表 10/5

第47回本別町英語暗唱・意見発表会が10月５日、町体育館で開催されました。英語暗唱には町内中学校の代表12人が臨み、それぞれが豊かな表現力と堂々した態度で発表。審査の結果、松本伶美さん（本別中３年）と齋藤愛莉さん（同２年）が最優秀賞を受賞しました。この他、意見発表には６人が出場し、「私の世界の出発点は」をテーマに、自身の先入観から誤解したことを反省し、本当の姿をみつめることが大事と語った高橋奏さん（同３年）が最優秀賞を受賞しました。

ふるさとの歴史をたどる 10/2

歴史民俗資料館で企画展「北海道150年展～ふるさとをたどる～」が始まりました。10月２日から平成31年２月28日の期間、北海道命名150年にちなみ、その名付け親と言われる探検家・松浦武四郎に関する資料や、本別町の開拓からの歴史を紹介する写真パネルなどが展示されています。10月下旬までの期間は、武四郎が作った「北海道国郡検討図」の拡大レプリカを床面に展示。地図の上に乗って、武四郎が記した本別町の位置など、細部をじっくりと見ることができました。また、会場には本別開拓八翁ゆかりの資料や道具などが並び、身近な歴史を感じることができます。今後、関連事業「ほんべつ学」では、町の開拓時代について講話を予定しています。

スポーツ・味覚の秋を満喫 10/8

体育の日記念事業第６回義経の里スポーツフェスティバル（町・町教育委員会等主催）が10月８日、河川運動公園芝生広場を主会場に行われました。強歩・マラソン大会は、3.3㎞と6.3㎞の部門に、小学生から一般まで計58人が出場。スタートの合図に合わせて、参加者らが自分の記録に挑戦する全力疾走を繰り広げました。自然・史跡探索ウオーキングには、13人が参加。森と川の舎の協力のもと、町の歴史を感じながら、ウオーキングを楽しみました。会場には、ストラックアウトやキックターゲットなどのゲームラリーや縁日、黒豆うどんの食事のほか、今年はキックベース大会が催され、来場した約250人がスポーツと味覚の秋を満喫しました。

教育のあり方、小中高で学びあう 10/3

本別町学校教育振興会と町教育委員会が主催する平成30年度本別町教育研究大会が10月３日、仙美里小学校で行われました。この研究大会は、町内の教職員が一堂に会し、教職員の力量を高め合うことを目的に毎年実施。同校では全５学級で授業が公開され、本別高校を含む町内の教職員88人が見学しました。授業公開後、開会式で寺島康博同振興会長が「町内の小中高校が連携して、何ができるか検討したい」とあいさつ。７部会の分科会では、参加した教諭らが、日ごろの課題解決等への取り組みなど意見交換し、教育のあり方について学びあいました。

まちの情報を広報電算担当へお寄せください ☎22－8121

トピックス

3町の高齢者が集う 10/10

平成30年度十勝東北部高齢者の学びのつどい（十勝東北部社会教育連絡協議会主催）が中央公民館で開催され、本別・足寄・陸別町の３町の高齢者ら120人が参加しました。午前の部では、元陸上自衛隊第５音楽隊の佐藤春美さんによるサックスやウインドシンセサイザーなどを用いたジャズや昭和歌謡曲が演奏され、聴きなじみのある曲に口ずさみながら音楽を堪能。午後の部では、鍼灸師の志戸田康代さん（帯広）を講師に自宅でもできるツボ押しを紹介し、参加者らは手や足などのツボを押しながらリラックスしました。

地震から身を守ろう 10/9

仙美里小学校（東森誠記校長、33人）が10月９日、同校体育館で防災教室を行いました。これは、平成30年北海道胆振東部地震が発生してから１か月が経過し、停電などの経験を踏まえ、あらためて防災の知識と備えを学ぼうと、地域の一般町民12人も参加して開かれたもの。講師の鈴木竜治本別消防課長が、災害が起こったときに家族と連絡を取る方法や、地震が起こったときに身を守る方法など説明し、「まず自分の身を守ることを最優先に考えてください」と語ると、原田侑樹さん（６年）が「しっかりと備えて、自分の命を守ります」とお礼の感想を述べました。

火災予防の願いを標語・ポスターに込めて 10/9・11

平成30年度防火標語・防火ポスターコンクールの表彰式が10月９日と11日に町内３小学校で行われました。このコンクールは、本別町防火管理者連絡協議会（宮崎統会長）、本別町危険物安全協会（伊藤英昭会長）が本別ライオンズクラブ（岡崎勉会長）の協賛を得て実施したもので、町内の小学校４年生から６年生を対象に防火標語と防火ポスターを募集。標語121編、ポスター37作品の応募の中から、標語９編、ポスター９作品の入賞が決定しました。表彰式では、宮崎会長らが児童一人ひとりに賞状などを手渡し、児童らは喜びの表情を浮かべていました。これらの入賞作品は、防火標語・防火ポスター展として10月15日から26日まで中央公民館ロビーに展示されたほか、ポスターの部本別ライオンズクラブ会長賞の作品は、ポスターとして印刷され、町内各事業所に掲示されています。入賞者は次の通り（敬称略）。

勇足小学校

【防火標語の部】

本別町防火管理者連絡協議会会長賞＝「外出時　あれっと思ったら　すぐ確認」
井内千尋（勇足小６年）

本別町危険物安全協会会長賞＝「小さな火　あくまのとけい　動きだす」
南部ちとせ（本別中央小５年）

本別ライオンズクラブ会長賞＝「きけんだぞ　火種一つぶ　あぶないぞ」天池陸人（仙美里小４年）

【防火ポスターの部】

本別町防火管理者連絡協議会会長賞＝原田侑樹（仙美里小６年）

本別町危険物安全協会会長賞＝川橋陽菜（本別中央小６年）

本別ライオンズクラブ会長賞＝大沼芳輝（仙美里小６年）

本中吹奏楽部が定期演奏会 10/13

第36回本別中学校吹奏楽部（舛舘奏楽部長、19人）定期演奏会が10月13日、同校体育館で開催されました。同演奏会は２部構成で行われ、１部はクラッシックなど吹奏楽用の楽曲を、２部ではポップス中心に軽快な曲を演奏。同校野球部が応援で「Everyday（エブリデイ）、カチューシャ」の曲に合わせて踊るなどの演出もあり、会場を訪れた約150人の観客から大きな拍手が送られました。３年生が引退となる最後の演奏会で、部員らは最高のパフォーマンスを披露しました。

青パトが防犯を呼び掛け出動式 10/11

全国地域安全運動（10月11日～20日）に伴う青色回転灯防犯パトロール隊（石山憲司隊長）出動式が10月11日、本別警察署（松谷剛署長）で開かれました。同運動は住民の防犯意識の向上を目的に実施され、出動式には隊員４人と署員らが同署会議室に集合。松谷署長の激励のあいさつおよび出動申告のあと、パトカーを先頭に同隊の車両４台が同署を出発し、町内の巡回やスーパー前での啓発活動を行って地域へ防犯を呼び掛けました。

鬼退治用の豆、獲ります 10/14

町商工会青年部（池田圭吾部長）とＪＡ本別町青年部（助川嵩幸部長）が主催する「まく豆作ろうぜプロジェクト」の大豆の収穫が10月14日、共栄地区にある鬼退治専用大豆育成地で行われました。５月に作付けした大豆が収穫時期を迎え、子どもや保護者など100人が参加。参加者は鎌での刈り取りや豆を乾かすニオ積み、乾燥が進んだ大豆をさやから取り出す脱穀体験をしました。

親子で楽しむ 10/13

子育て支援センターほんべつ主催による子育て支援センターまつりが10月13日、同センターで開催されました。会場では手作りの椅子や積み木などが販売されたほか、お菓子くじなどの縁日、人形劇や絵本の読み聞かせなどが催され、参加した親子など約130人は楽しい時間を過ごしました。

まちの情報を広報電算担当へお寄せください ☎22－8121

みんなの健康 411

腎臓について ～知ろう、防ごう、慢性腎臓病～

腎臓は血液をろ過して尿を作り、老廃物や有害物質を体外へ排出するという役割を担っています。また、体内の水分や塩分の調整、貧血や骨に係るホルモンを作るなど重要な働きがたくさんあります。なんらかの病気によって腎臓の機能が徐々に悪化した場合、慢性腎臓病となり、最終的に機能が消失すると末期腎不全となります。末期腎不全となると、腎機能を代行する人工透析という治療を生涯続けていかなければいけません。近年、慢性腎臓病は成人人口の約13％（8人に1人）が発症する新たな国民病ともいわれています。

腎臓病の原因には、糖尿病、高血圧、動脈硬化などの生活習慣病に長期罹患した後に発症する場合や、腎臓そのものにトラブルが生じて起きる腎炎などがあります。また、遺伝するものもあり、特に頻度の高いもので多発性嚢胞腎というものもあります。

腎機能は一度失われると元に戻すことは難しいのですが、最近では良い治療法や薬などが出てきており、早期に治療を開始すれば腎機能の低下を防いだり、遅らせたりすることが可能になりました。しかし、腎臓は沈黙の臓器と言われ、機能がかなり低下していても自覚症状がないため、気づいた時にはすでに末期腎不全になっていた、ということも少なくありません。

早期発見するためには、自覚症状がなくても尿検査と血液検査を定期的に受け、自分の腎臓が今どんな状態なのか把握しておくことがとても大切です。また、普段から腎臓にストレスをかけない生活習慣（減塩、禁煙、節酒、運動不足の解消）にも心掛けましょう！

本別町国民健康保険病院
人工透析室 主任
清水美和

銀河ボットラインー足寄町・陸別町からー

足寄町

足寄町開町110年記念
第39回 足寄町女性のつどい

□日　時　**12月9日(日)**
午前10時～午後3時
□場　所　足寄町民センター
□内　容
・講話「池田剛基のプロ野球おもしろ話」
講師：池田剛基さん（足寄町教育委員会主査 元プロ野球選手）
・実践「いきいき健康体操」
講師：小林永枝さん（健康運動指導士）
・基調講演「出会いと絆」
講師：渡辺徹さん（俳優）

□参加料　無料
□その他
昼食（700円）または託児所をご希望の方は11月27日までにお申し込みください
□申し込みおよび問い合わせ
足寄町教育委員会生涯学習担当
☎25-3188

陸別町

驚き！おもしろ科学実験2018

北大、名大、北見工大の先生・学生らによるおもしろ実験コーナーや、足寄動物科学博物館の化石・鉱物堀り体験、講演会&ワークショップなど、子どもから大人まで楽しめる内容です。皆さまのご来館をお待ちしております。

□と　き　**11月10日(土)**
天文台開館時間
午後1時～午後9時30分
□ところ　銀河の森天文台（陸別町宇遠別）
□内　容
①実験コーナー　午後1時～午後6時
②講演会「オーロラへの想い ーカナダでの暮らしー」
午後4時～午後4時30分
ワークショップ「オーロラ・夜空の撮影方法」午後8時～
講師：内野志織氏（写真家）
□問い合わせ　銀河の森天文台
☎27-8100

未来に輝く子どもたち

本別町の未来を担うかわいい星たちです。お父さん、お母さんのたくさんの愛に包まれてすくすく元気に育ってね！

明美 瀧澤友章くん（幸ママ）

南4丁目 上田歩夢くん（香奈ママ）

北6丁目 都鳥睦人くん（真以ママ）

※写真は本人に了解を得た上で掲載しています

自治大学へ派遣研修

建設水道課薩田尚文課長補佐（47）が11月5日から1月21日までの期間、研修のため自治大学校（東京都）へ派遣されます。研修では、法律や政策などの行政執行に必要な知識を学びます。

ご寄付ありがとうございます

平成30年9月16日から10月15日

次の通りご寄付をいただきました。
紙上にて厚くお礼申し上げます。（敬称略）

★図書館図書購入指定
金200,000円……税理士法人ＴＡＰ

★本別公園内整備指定
エゾヤマザクラ（植栽込み）6本
……札幌市　小川貴美子

★本別町老人ホーム指定
サンマ112尾……釧路市　高見武則
きゅうり12kg・ミニトマト27kg
……勇足西4　逸見孝雄

個性あるふるさとづくり寄付条例による寄付
※町内の寄付者を掲載させていただきます。
金500,000円…河原商店 代表取締役　河原國夫
金160,000円……南1丁目　河原國夫
計 金3,655,000円……199人
（上記含む）

戸籍のまど

9月後半から10月前半の届出分

お誕生

伊賀夢叶ちゃん 栄治さん 清佳さん 9/20 弥生町

小泉蒼太くん 大佑さん 稚佳子さん 9/27 仙美里元町

ご結婚

江平 秀さん 北6丁目
伊東 みちさん 北6丁目

後藤俊輔さん 清流町
伊藤 葵さん 清流町

おくやみ

金子禮子さん 89歳 9/19 負籠1
山田鶴雄さん 78歳 9/24 向陽町
池田邦夫さん 82歳 9/28 北8丁目
小澤貴行さん 46歳 10/3 北3丁目
山下榮藏さん 87歳 10/3 南2丁目
新田好重さん 77歳 10/7 北8丁目

わたしたちのまち

	前月比
人口	7,112人(−4)
男	3,489人(−3)
女	3,623人(−1)
世帯数	3,684戸(−4)

〔9月末日住民基本台帳〕

本のある暮らし 212

いのちのぬくもり

～薮内正幸の動物絵本～

ただ今、図書館では「秋の読書週間」を開催中です。その催しの中から、今年の十勝管内公共図書館共通のテーマ展でもある「薮内正幸（やぶうち・まさゆき）の動物絵本」を紹介します。いきいきと精密に描かれた動物たちの姿にぜひ触れてください。

迫力と繊細さを楽しむ
大型絵本
しっぽのはたらき

次々と出てくる動物の「しっぽ」の特徴がよく分かります。毛の１本、羽の１枚に、作者の生きものへの愛情と敬意が感じられます。
（サイズ48×44cm）

大ロングセラー
どうぶつのおやこ

1966年の初版から122刷を重ねる名作で「動物絵本の代表」ともいえる文字のない絵本。命の温かみ、親子の絆の強さが伝わってきます。

作者　薮内正幸（1940－2000）
大阪生まれ。子どもの頃から動物が好きで、独学で動物画を描き始める。出版社勤務後、フリーランスに。図鑑、絵本、広告など幅広い分野で活躍し、10,000点以上の作品を残す。2004年、山梨県に日本で唯一の動物画専門美術館「薮内正幸美術館」が設立された。

◆耳より情報◆
北海道初の開催「薮内正幸絵本原画展」
とき
12月15日(土)～24日(火)
ところ
とかちプラザ・ギャラリー

お問い合わせ先
本別町図書館
（愛称：ぶっくるーむ）
本別町北2丁目 ☎・FAX 22-5112

■発行　本別町／〒089-3392 北海道中川郡本別町北２丁目４番地１　■ホームページ　http://www.town.honbetsu.hokkaido.jp/
■編集　企画振興課広報電算担当　TEL 0156-22-8121　FAX 0156-22-3237　■印刷　本別印刷株式会社

資源を大切に――
広報ほんべつは、道産間伐材使用しています。